



^13  
3843  
15



門へ13  
號 3843  
卷 15



繪本西遊記二編卷之七

聖僧夜阻通天水

金木垂慈救小童

結統那國王三國師乃死亡せし以傷歎く泪止まらず行者殿前  
 小進高呼曰陛下怎麼さまき妖小昏狂く深く哭ぬ  
 や見放著三法師の屍骸一個と虎一個と鹿一個と狼羊なり是原  
 来成精する山歎めく假小道士と粧此小きより陛下被害せし  
 と謀まじものいよと氣敷表さるる故小敢て手成下し得むと僧道を  
 破滅し佛法を亡しし其是其頭證なりり今二年乃月日妖漢  
 を陛下乃氣敷兼へ他們が為小性命被害せられ江山りく妖魔  
 を奪われ玉の幸小我此國小きより妖邪を除た國害を救へ  
 大方の幸福なりとや快く迷ひ乃朦霧をまひ僧を招回し政を

西遊記二編卷之七

正しく萬民を按撫し、理を盡し、練るべし。國王初々悟り、  
 深く感謝し、曰、朕不明、小女邪、乃為小惑、溺せし、殆ど國  
 を失くし、幸、小天聖僧を来し、國害消除し、又敢て謝  
 せし、小所なり、と、急、小大師、小傘、と、唐僧、徒弟、を智洌、寺、小  
 送、と、種々、小酌、謝、其、夜、小寺、小安、歇、次、乃、日、五、更、小國、王、朝、小出、官、人  
 小旨、を傳、と、快、く、僧、を、招、回、と、傍、文、を、四、門、乃、各、路、小張、掛、殿、上  
 小筵、宴、を、設、け、駕、を、擺、と、智、洌、寺、小、了、り、三、藏、師、徒、を、結、了  
 殿、中、小、回、と、歡、喜、乃、與、宴、を、乃、関、文、を、換、受、与、し、これ、を、三、藏  
 大、小、悦、ひ、別、を、告、と、立、出、る、ふ、ぞ、國、王、皇、后、嬪、妃、を、と、り、兩、班、乃、文  
 武、是、を、送、と、朝、門、を、出、る、是、乃、前、那、行、者、と、り、小、晚、命、と、り、五  
 百、們、乃、和、尚、小、僧、を、饒、と、り、乃、の、傍、文、を、掛、ら、れ、と、步、個、と、勇、と

悦、ひ、連、く、城、小、回、と、き、り、路、上、小、跪、た、三、拜、と、奉、天、大、王、王、弁、と、し  
 稱、へ、我、小、是、沙、灘、乃、上、と、り、晚、命、乃、困、を、蒙、り、僧、人、乃、知、  
 小、大、聖、妙、尊、を、掃、除、我、小、を、救、ひ、乃、難、有、き、と、願、く、と、毫、毛、乃、納、  
 乃、と、り、叩、頭、と、り、小、行、者、と、り、一、毫、毛、を、納、免、君、臣、小、對、  
 曰、這、和、尚、們、妖、小、役、せ、と、り、己、小、死、小、向、と、り、及、老、孫、前、小  
 救、ひ、ま、り、と、り、兩、個、乃、妖、道、を、步、死、し、乃、向、後、再、小、胡、為、乃、り、乃、  
 惑、少、信、を、守、と、り、三、道、を、把、と、り、一、致、小、歸、し、僧、を、敬、ひ、乃、民、を、言、國、の  
 長、久、を、練、め、と、り、誠、し、く、國、王、感、謝、小、不、受、終、小、別、と、り、城、を、送、り、出  
 し、乃、斯、と、り、三、藏、小、乃、魯、路、を、急、に、曉、小、行、夜、小、住、と、り、渴、く、と、り、  
 飲、飲、と、り、浪、し、行、程、小、春、寒、夏、殘、と、り、秋、光、乃、天、乃、至、小、皆、つ、小  
 一、日、天、色、已、小、晚、と、り、唐、僧、馬、を、勒、と、り、曰、徒、弟、小、天、已、小、晚、と、り、宿

我を角丸人家にあつざり。行者声小焦く曰。此辺に角丸嶮峻  
 あつて更小一軒の人家もあらず。月光小兼く今一程より人家  
 あら所小至りて宿を要ひんと。師徒是よりて彼奈何も行者  
 小随ひて行くと。幾すもあつざり。只小歩漏る浪と響く声あり。八戒  
 が曰。罷了々々路是よりて。是一般の水撞り。唐僧ぞく  
 焦生る。此川を渡るべし。八戒曰。我先此川の浅深を試みん。三藏曰。我  
 汝試み乱綾を休よ。這川の浅深如何と。知る。我ほし。八戒曰。我  
 一介の石頭を搦ひ来。是を河の當中に抛り。水乃泡起ると。ハ  
 是浅り。骨都々々と沈む声ある。河を深し。行者亦く。汝早  
 試よ。八戒路旁の石頭を拾ひ。水中に望み。抛込る。只骨都  
 々々と沈む。ハ。我是を度く。深く。と。つ。惆然と。三藏曰。汝川

乃浅深を試み。れどもあらず。寛洞を不知。是亦も試上。八戒曰。其  
 ろを敢て知ら。行者大り。小。ハ。然も何の益もあらず。老孫  
 乃。と。解斗雲小跳。駕空中。小上。定河と觀小。洋。と。こ  
 月光を浸し。浩々。影天小。浮ぶ。靈波ハ。花岳を吞。長流百川を  
 貫た。千層の河浪を。滾。り。萬疊と。なり。岸口小。渾火も。く  
 破頭小。只。鷲乃。眼。居。四方。茫茫。と。海。一。空。小  
 辺際。行者歎息。と。雲を。收。川。下。曰。扱。寛。我  
 火眼金睛。日。裡。八千里の内外を。見。夜。と。魚。五百里。間。を。火  
 を。通。今。通。着。所。更。小。辺。岸。を。寛。洞。の。敷。を。知。能。と。二。海  
 大。小。鷲。の。洞。小。峻。曰。徒。弟。亦。是。何。と。せ。と。汝。僧。練。曰。師  
 又。哭。り。我。那。里。を。見。小。水。辺。小。立。者。あり。是。大。人。あり。と



何々川門



唐僧師  
徒到通  
天河

三藏

行者

悟浄

八世

西遊記

行者曰。此非漢人。我往。他小同。鐵棍。把  
 跑到。是。人。小。一。面。石。碑。上。三。個。乃  
 篆書。大字。あり。下。小。兩。行。の。十字。の。小。字。あり。三。個。乃。大。字。ハ。通。天  
 河。と。あり。小。字。を。經。過。八。百。里。亘。古。女。行。人。と。あり。行。者。三。藏。を。呼  
 ぶ。是。を。見。ると。小。三。藏。一。日。々。涙。を。なが。當年。長。安。を。出。り。只  
 西。天。の。行。く。經。を。取。し。の。ま。り。ひ。く。或。ハ。好。大。阻。れ。或。ハ。山。水。の。遠  
 方。小。隔。ら。ま。百。年。千。苦。せ。ふ。今。や。此。所。小。到。り。渡。る。べ。し。手。段  
 小。多。ぬ。是。ハ。何。と。せ。と。憂。ひ。阿。の。折。し。幽。小。鼓。鉦。の。音。は。え。り  
 八。戒。が。曰。かり。小。是。人。家。あり。小。宿。を。做。と。覺。と。い。や。俱。小。安。と。い  
 些。乃。飯。を。請。宿。を。も。借。ん。と。勸。ま。し。師。徒。是。小。日。々。再。ハ。進。行  
 小。一。乃。正。路。あり。四。衆。大。小。力。を。得。漫。々。と。砂。灘。を。ま。と。り。と。望。む

見。れ。是。然。三。藏。乃。人。家。四。五。百。軒。斗。あり。三。藏。馬。を。下。り。路。の。頭  
 乃。家。を。見。り。小。門。外。小。一。角。の。幢。幡。を。建。燈。を。煌。一。香。を。設。け。り。と  
 三。藏。悟。空。を。願。い。曰。此。所。山。四。河。辺。小。比。ぶ。こ。の。辟。下。小。寐。り。の  
 冷。露。を。遮。り。放。心。穩。眠。る。夢。し。汝。小。是。小。待。我。先。り。り。宿。を。求  
 め。き。と。ん。が。昔。々。我。を。任。を。汝。小。を。呼。ん。假。若。不。留。も。汝。們。撒。潑  
 る。な。れ。汝。ホ。う。臉。嘴。醜。露。あ。く。恐。ろ。く。人。を。號。了。と。言。禍。を。引。出  
 一。住。と。る。所。あり。心。行。者。領。堂。一。師。又。先。行。り。我。們。這。所。少。々。待。り  
 魚。一。三。藏。遠。小。望。を。持。錫。杖。を。抱。く。迂。小。人。家。乃。門。外。小。到。り。小  
 門。半。開。け。半。掩。り。三。藏。敢。く。擅。小。入。り。守。聊。結。む。と。ろ。小。裡。より  
 一。個。乃。老。者。ま。り。出。る。其。鉢。頂。下。小。珠。數。を。け。り。小。阿。弥。陀。佛。を。念。入  
 自。ら。門。乃。力。を。開。く。守。三。藏。小。合。掌。一。高。く。呼。ぶ。曰。老。施。主。哲。し

待り貧僧同訊あり。老者が曰。汝きききき。今些一遅いと三藏  
其理をききき。何ぞ。鏡小い。やと問。老者曰。まききき。遅れた。小物係  
若早くききき。て我舎小毎あり。僧衆し。飽す。飯を吃し  
其上小熟茶三杯。白布一端。銅錢十孔。法を絶せり。三藏躬身。曰  
貧僧。是は。小逢し。ききき。まききき。小あきき。是は。東土大唐の欽差  
わき。西天小至。経を。僧かき。今。這里小きき。天色。已小晩。より  
然る小宿。う。死家。わき。幸小鼓。鼓の。声を。空。特。未。つ。一。宿  
を。結。ん。為。なり。老者。手。成。搖。曰。和尚。小出家。人。小似。げ。か。経。結。を  
り。人。多。東土。大唐。より。我。此。里。小。ゆ。き。五。萬。四。千。里。の。路。あり。然る  
小。單。身。小。奈。何。を。ま。き。き。き。を。ね。ん。三。藏。曰。老。絶。主。の。言。理。あり  
但。貧。道。單。身。か。三。個。の。小。徒。あり。山。小。逢。き。路。を。開。き。水。小

遇。と。搗。を。き。貧。僧。成。保。方。小。此。所。小。未。き。り。老。者。曰。已。小  
徒。弟。あ。き。何。ぞ。何。ぞ。未。り。ま。き。我。舎。小。安。歇。の。所。あり。三  
藏。悦。ひ。頭。を。回。し。徒。弟。此。處。へ。来。き。呼。ぶ。ぞ。行。者。原。来。性。急  
なり。八。戒。の。祖。魯。一。沙。僧。の。生。得。拳。壯。な。れ。三。個。師。の。声。を。ゆ。と  
ひ。馬。を。牽。担。か。排。著。一。陣。の。風。の。閃。が。き。き。未。る。老。者  
此。徒。を。み。く。號。ほ。く。跌。倒。ま。奴。姪。来。き。命。を。救。と。呼。ぶ。れ。い  
三。藏。是。を。挽。起。し。曰。絶。主。怕。ま。き。是。奴。恠。小。あ。き。我。徒  
弟。なり。老。者。曰。這。般。の。好。師。又。小。怎。麼。す。此。中。小。醜。な。徒。弟  
を。將。り。と。戦。々。兢。々。同。き。れ。三。藏。答。曰。人。小。相。貌。小。手。這。三  
人。の。徒。弟。皆。神。通。有。龍。を。降。り。虎。を。伏。し。妖。尸。を。捉。る。袋  
の。物。を。探。る。是。小。因。り。貧。僧。遠。く。此。里。ま。き。来。る。我。は。は。り

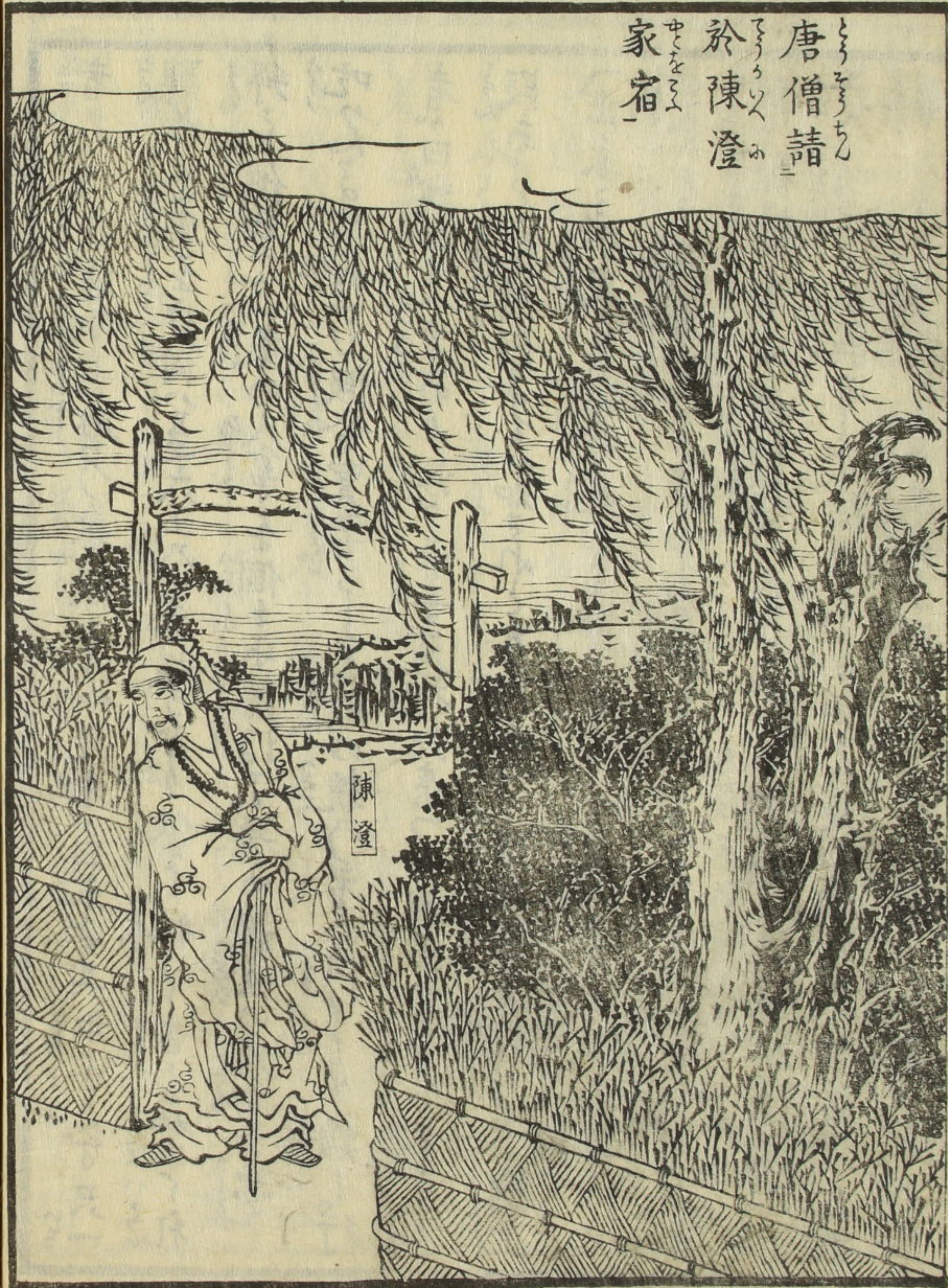
老者まご羊疑羊信かろ。先唐僧師徒を裡小入る。行者八戒八馬  
を捨た行李を丟下し廳小至つら小幾今乃僧經を念居し  
つらつら行者八戒汝僧か進しきつらを忍び衆人恐き恨た通跑  
花燈を踏倒し經札を蹴散しし你頭撞我頭やうさ久胡苦架小  
風乃荒ろ小異かふ。二人も是を忍び思守嘻々哈々と笑ふ。三  
藏喝し曰這免頑先小老絶主を殺し今又妻乃和尚を統倒さ  
せ却し我小罪をよとやと言つらつら行者理小伏し至翁小向ひ  
礼をなし老爺我門無礼を統倒了早く花燈を了花く佛りを  
将収り老者此言小心を安んじ童僕を呼し火を點ささつら小皆  
行者八戒を忍び妖怪未きりして逃入ら小より。行者自ら燈燭を  
点し此付より二個乃道士出きり是ハとも何の妖怪ぢやと問先乃

老者曰那和尚ハ妖怪か守大唐より西天小到し經をとろ羅漢  
乃徒弟や相親宛なれも皆是善人なり。那道士是を安んじ四  
衆小礼をなし一各小坐しし童僕亦方す小怕をとら茶を献  
し各を擺し管待たり。四箇各を罷し後三藏老者小回ら。老絶  
主乃高姓ハ何と称しや。老者曰姓を陳氏ゆい。三藏曰貧僧ハ姓  
ハ陳氏なり。扱今ハ何乃各我ちなり。老者曰是ハ頑亡命を脩し  
いなり三藏曰是は何の亡命ぢや。二個乃老道士一各小涙を流し曰  
長老や我這里小一坐乃靈感大王の廟あり。那大王と年々其雨を  
絶し慶雲を降し五穀乃豊饒を扶くされども是正神小あらず  
一年一次乃祭實小童男童女を牲體を供しちく吃するを好む。是  
を供まを我門を保し雨を調へ風を順し若供されも禍を降



一害を生じし今年我舎輪到ゆ。悲しむ老拙を陳澄とて令  
 六十三舎弟ハ陳清とて五十八歳我止生乃一女終ハ八才名を一秤金と  
 ちと舎弟乃止男の二男終ハ七才名を陳園保と呼し二人とも今夜  
 大王の廟ハ牲體ハ出ハ流石恩愛の情捨が。孩兒ホと子ハ個の  
 超生道場をテ預り亡命を修ハいなりと結る裡より涙雨乃とて  
 声を吞ク哭伏タリ。三藏ハ此言ハ度ク涙を不住衣の袖を去りぬ  
 行者ウ曰老公汝ハ府上ハ小妻クの家財あり。老者答ク曰此ハ家室  
 あり。水田早田二百頃草場九十處金下ハ不吃ハ糴若子ハ衣服銅  
 錢あり。行者ウ曰己ハ斯の。富豪ハ何ぞ兩個の童男女を買  
 へ。糸小實ガ。二老とも哭ク曰和尚ハ子細を知ハ子那大王甚ク  
 靈異ハ。平素我々が家ハ未通ハ。我々が孩兒を見タレハ行

者白他來通ハ甚摩乃摹様ナ。老者曰其形を尺守只一  
 陣乃香風を度ハ是大王乃来レタリ依テ忙ク香を焚ケル  
 拜ト他我ハ一家の人等を個々ハ認レ。殊ハ親生の兒女を要ク  
 吃ハるを望ム假令買要ルモ一般の貌ハ者をば難ク行  
 者曰我ハ昔あり汝ハ童女ハ抱テ来ツ。我ハ看ミ。自ラ手  
 段あり。陳清何ゾハ知サレト房内ハ今陳園保を抱テ。廳上  
 ハ出來ル小兒ハ今死ス。身も去ル。菓子ハ拿花を弄ル。余  
 余念ナ。行者定ト。身を揺ミ。刀ハ。保ハ。模様トナリ。兩個燈ハ前ハ在テ。楹ハ。戯ル。丹乃。咲出。小異ハ。陳清大ハ。和尚何カ。我孩兒ト。般  
 次女ハ。願ク。本相を現。行者声ハ。應ド。本相



唐僧請  
於陳澄  
家宿

五逆言一經卷十

を現し、同じく曰。今この像汝を愛息と違つてや否や。陳清曰。更に分毫も違ふ所なり。行者曰。然るを我汝が孩児小替とて、牲體とてかゝらん。如何。陳清大に悦び、跪下頭を叩き曰。和尚慈を垂て我孩児を救ひ、香煙後代、白銀千兩を唐僧小献し、盤纏とてかゝり。西天小往、使とせん。と。脱羅が又磕頭し、只管小歎き、慙む。陳澄も只黙然とて、柱小侍とて愁然とて涙を流し居り。行者進みて問す。若し爺汝も女児を痛哭す。陳澄急小跪下り曰。萬望我女児を救ひ、行者曰。汝憂るゝ勿れ、那嘴の長た和尚を變へ、汝が女児とて、兩個の命を救ひ、はせん。八戒是之度大に驚き、曰。哥哥、汝左も右もせよ。我六代身となり、吃れん事を要す。我決つて不肯。行者曰。汝原来三十六般の變化あり

恁麼ぞ不會さるや。三藏曰。八戒小向ひ、行者が云く、人の性命を救へ、七級の浮屠を造る小勝より、右も左も、女児の命を救へ、責められた。行者陳澄小向ひ、汝が女児を抱き、れと分付る。陳澄急小裡小令一秤金を抱え、廳上小出る。其後小就く一家の老幼男女都く出き、り、磕頭し、禮拜し、二秤金を菓子を吃し、余念なり。行者八戒小曰。汝快く變じ、此女児の模様とせられよ。八戒已るをば、兄縁を念し、頭を數度指し、稍々阿し、娘の尊様とて、なるがれ、も面目頗る、膝大り、像曰し、行者曰。汝今一度變じ、替よ。八戒中、左右、變じ、替られ、も益似はる。行者亦變じ、替よ。責められた。八戒汗を拭ひ、頭をうり、哥哥、只此役を饒せ、我如何。變せられ、も是より不成と、辭退すと。其時行者一口の仙氣

を吹きぬ。八戒が身再び變じ、女兒の像と一般なり。行者陳  
 氏兄弟小向ひ。汝も童男童女を將て隠れ居よ。今我  
 們を怎ぞ尋めし。那大王小敵し。陳澄が白。兩個の紅漆の盤小  
 二位を緒て坐せし。兩張の桌の上置。拾て廟裡小到らん。八戒が  
 曰。我は是假小代身と。なれども吃しん。不肯行者笑。曰。他先  
 我を吃を。汝先へ逃回。八戒推返。曰。他。我を先小  
 吃し。を。又如何と。陳清が白。前年大胆の者あり。廟の傍よ  
 王洞。他先童男童を吃ひ。ほ小童女を吃し。せり。八戒は女  
 心を安ん。造化し。頓て兩個の紅盤を取出。二張  
 の桌の上。兩個其上。坐する。折し。忽ち外面の鑼鼓天小  
 喧し。燈火照耀。前門を叩。陳清昆弟快。童男童女を

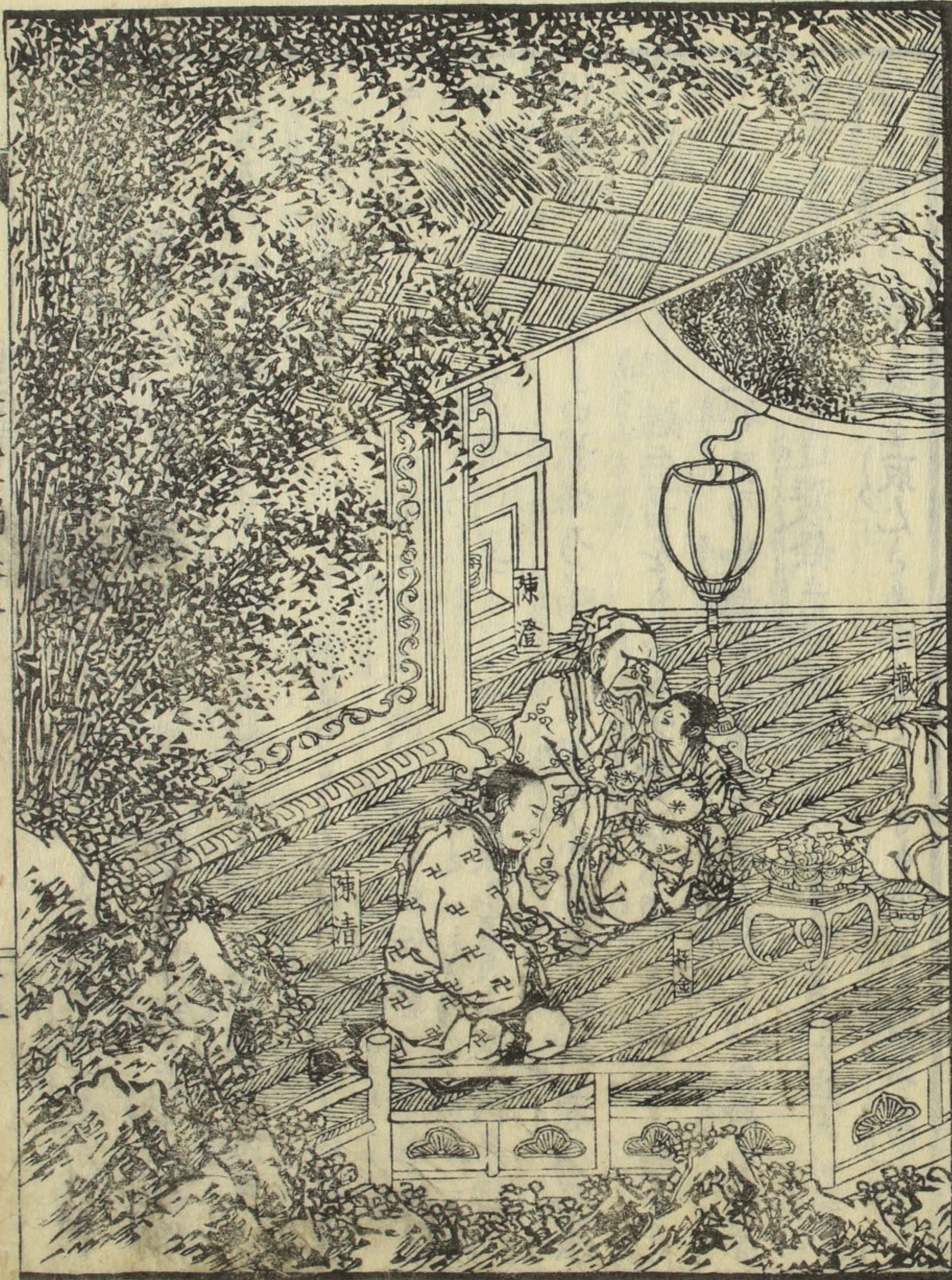
拾出せし。口々小叫。是這里の者。しが推體を供せん。と。来。是之  
 光者兄弟。泣。二人を拾出。と。

魔弄寒風戰大雪 僧思拜佛履層氷

絡繞陳家の二老 衆人とも小童男童女及ひ猪羊の牲を拾  
 鑼鼓を叩鳴し。喧々囂々。靈感王の廟の裡。到。先兩個の乗る  
 紅盤を上。首小供。桌を。登。致。香を炷。燭を點。行者  
 頭を回。看れ。廟の正面小金字小。牌位あり。文字ハ  
 是。靈感大王之神と。写せり。因小衆人。各小頭を。地を磕。と。  
 曰。大王爺。今年今月。今何乃。祭主陳澄。陳清。亦例。歳。一。童  
 男。陳保。閔童女。秤金。其餘の供物。小。數。小。大  
 王願。是。是。小。牲。を受。用。風。調。雨。順。五。虎。の。豊。登。と。獲

王のいと祝罷衆人迹をも刀守りて同去ぬ。八戒人々の散らぬ。行者小向ひ衆人已小同去まき。我れも家へ同るべから。行者曰。汝が家  
 那里小あるや。八戒曰。陳氏が家小行と睡ら。行者喝と曰。汝が家  
 乱終を吐く。己小大王小吃まき。とて代身小なり。とる者の其始終を  
 も刀守り同る。他徒小災を降し。害を貽まき。とて言まき。終らざら。一  
 陣の腥風吹きまき。八戒小やうた。是必と。那大王の来るまき。とて  
 行者急小制し。汝必と。言終ら。とて我れと。銳終ら。とて議まき。とて  
 所小。忽ち廟口の外より一個の妖怪あり。廟小入門を鋭固め。牲の  
 兩人小近着問まき。と。今年の祭主。是那の家小あり。や。行者曰。と  
 曰。仰め。や。とて。陳澄陳清が家小あり。と。那妖怪行者が言。汝は  
 心中大りの疑ひ。這孩兒甚と。大胆と。言終。伶俐なり。常小まき。とて。供

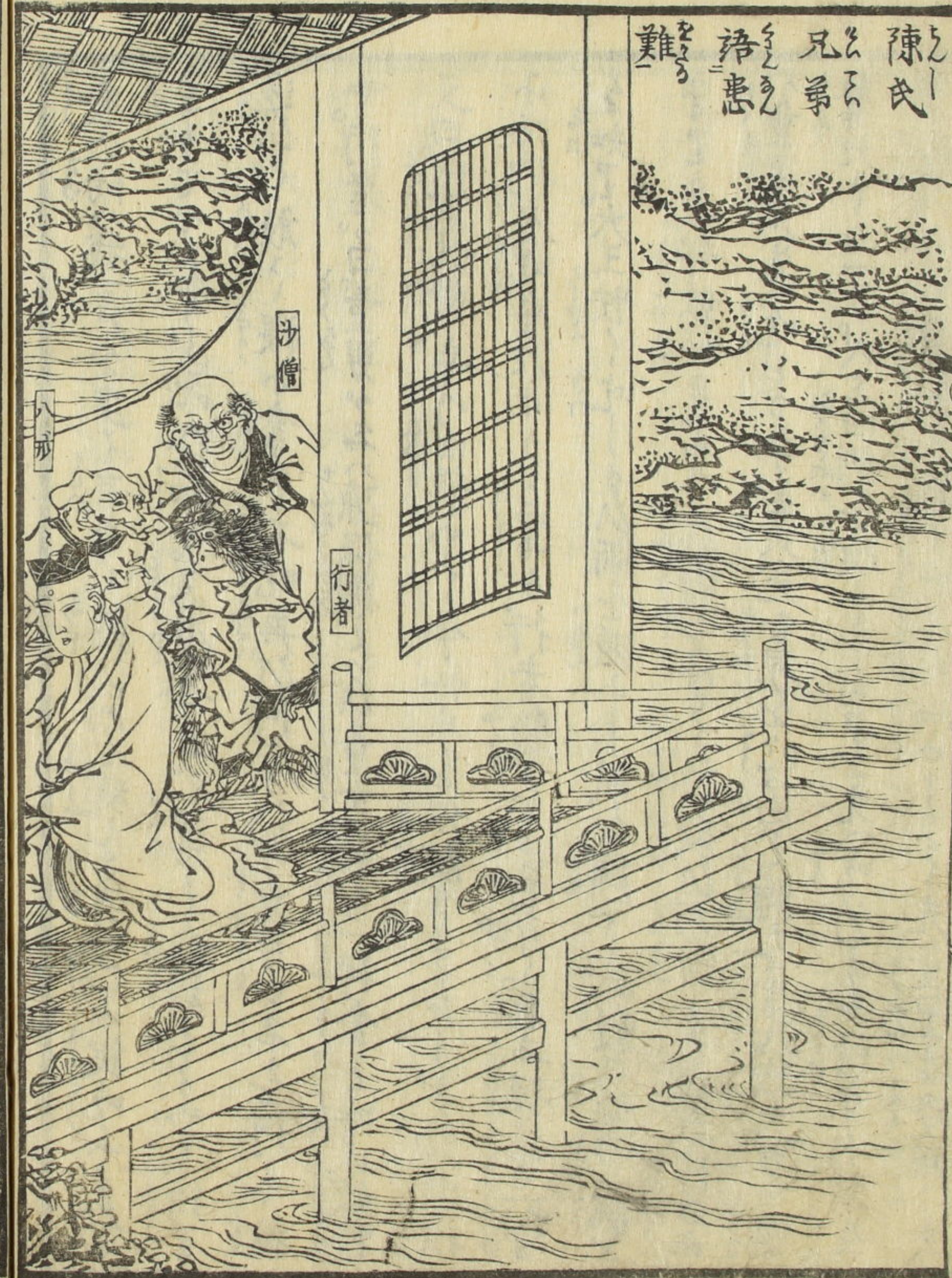
養の的ハ我一声を度と言なり。再び問を魂を失ひ。己小捉吃と。とれ小  
 至りて。とて。か。とて。死人の如し。と。何。今日の童。と。應對まき。と。や。と。行  
 迷ひと。敢と。猥小拿と。不吃。再び問まき。と。汝童男女名を何と。稱  
 や。行者曰。童男が名。陳保閑と。と。童女。就ち一秤金と。呼ひ。妖怪  
 又曰。這祭ハ常年の旧規と。今汝小を供獻まき。と。と。わ。と。れば。我。徑  
 小汝們を吃。と。た。り。と。罵。行者。臆まき。と。色。と。我。亦。従。来。其。音  
 を。知。王。大。王。快。く。吃。と。の。雨。を。順。小。風。を。調。と。五。穀。の。饒。饒。と  
 守。王。の。那。妖。姪。是。亦。の。應。對。を。中。と。弥。疑。ひ。大。喝。と。曰。我。は。小。小  
 ハ。童。男。先。吃。と。も。今。年。ハ。先。女。兒。を。吃。と。と。彌。を。度。八。戒。大。り。小。慌  
 驚。た。と。云。王。大。王。旧。例。を。壞。と。と。吾。を。先。吃。と。と。情。を。我。生  
 稟。瘦。肉。小。骨。堅。と。願。味。不。好。旧。小。と。先。童。男。を。受。用。と。と。



陳清

陳澄

陳清



陳氏兄弟  
語患難

沙僧

行者

西遊記二卷第七

十一

とくも妖姪手ゆり不容分親大手を抜き八戒を捉(吃)りて  
 八戒今(いま)堪(たま)りて本相(ほんさう)を顯(あら)わす紅盤(こうばん)を跳(は)り下(くだ)り  
 劍(けん)を削(けず)りて妖姪(まけめ)が背(せ)を引(ひ)掛(か)け倒(た)れし  
 妖姪(まけめ)何(なに)ぞ驚(おどろ)かすや手(て)成(な)り縮(ちぢ)りて逃(に)げり  
 只(ただ)一(いち)声(こゑ)の響(ひび)きを残(のこ)せり八戒(はっかい)志(こころ)ざり顔(かほ)赤(あか)ら  
 一(いち)定(ぢやう)妖姪(まけめ)が甲(か)の所(ところ)を撞(つ)き  
 呼(よ)び行(ゆ)く行者(ぎやうじや)も本相(ほんさう)を露(あ)らわす八戒(はっかい)を喝(あ)りて曰(いは)く汝(なんぢ)が子(こ)短慮(たんりょ)り  
 他(た)を走(は)りてせり何(なに)ぞ何(なに)里(り)まじりて是(こゝ)に彼(か)を看(み)る小(こ)大(だい)の魚鱗(ぎょりん)兩(りゆう)  
 個(こ)落(お)ち散(ち)り然(しか)る妖姪(まけめ)乃(すなは)ち喝(あ)りて遥(とほ)空(そら)中(ちゆう)にばえんれバ行者(ぎやうじや)八戒(はっかい)續(つ)き  
 空(そら)中(ちゆう)に跳(は)り上(あ)る那(な)姪(まけめ)兵(へい)器(ぎ)を帶(た)せ守(まも)り雲(う)端(たん)の現(あ)りて行者(ぎやうじや)八戒(はっかい)を足(あ)り  
 同(どう)なるハ汝(なんぢ)ハ是(こゝ)に那(な)里(り)乃(すなは)ち和(わ)尚(じやう)小(こ)童(どう)男(なん)女(にょ)と粧(ま)け我(われ)狐(こ)欺(あや)り行者(ぎやうじや)  
 大(だい)音(おん)小(せう)呼(よ)びり多(おほ)く是(こゝ)に這(こ)りて激(げ)く我(われ)を走(は)りて是(こゝ)に大(だい)唐(たう)の僧(そう)と  
 保(たも)つ西(せい)天(てん)小(せう)至(し)王(わう)經(きやう)を取(と)りて今(いま)日(にち)をくすも陳(ちん)氏(し)の家(うち)小(せう)寓(あ)りて皮(かわ)ハ

妖邪(ようじや)有(あ)り假(かり)小(せう)靈(れい)感(かん)大(だい)王(わう)と稱(しょう)一(いち)年(ねん)々(々)童(どう)男(なん)女(にょ)を要(よ)うて吃(く)り  
 我(われ)小(せう)慈(じ)悲(ひ)の心(こゝろ)を以(も)つ假(かり)小(せう)童(どう)男(なん)女(にょ)が代(た)身(み)とな(な)り汝(なんぢ)が如(ごと)き激(げ)物(ぶつ)  
 を捉(と)り禁(い)んし守(まも)り汝(なんぢ)這(こ)りて住(す)る幾(いく)年(ねん)々(々)大(だい)王(わう)と稱(しょう)一(いち)幾(いく)千(せん)の童(どう)  
 男(なん)女(にょ)を食(く)ひて一(いち)々(々)等(とう)とて自(みづか)首(くび)的(てき)甘(あま)く繞(まわ)り死(し)罪(ざい)を饒(に)は  
 まんし小(せう)の心(こゝろ)を穿(う)す那(な)妖(まけ)姪(め)乃(すなは)ち頭(あたま)を同(どう)し逃(に)げり八戒(はっかい)早(はや)く劍(けん)を  
 輪(りん)に起(た)りて他(た)方(かた)小(せう)一(いち)陣(ぢん)乃(すなは)ち狂(きやう)風(ふう)と變(か)りて颯(さつ)と通(つう)天(てん)河(が)の裡(うち)  
 小(せう)入(い)更(さら)小(せう)像(ざう)を乃(すなは)ち守(まも)り行者(ぎやうじや)是(こゝ)に乃(すなは)ち曰(いは)く何(なに)も合(あ)點(てん)の守(まも)り小(せう)  
 他(た)鱗(りん)を遺(い)せしを以(も)つ乃(すなは)ち河(が)中(ちゆう)に任(まか)す大(だい)魚(ぎよ)乃(すなは)ち精(せい)小(せう)や八戒(はっかい)賢(けん)  
 々(々)小(せう)曰(いは)く哥(あ)みき々(々)を待(まち)明日(あした)謀(ま)を定(ぢやう)め他(た)を食(く)へ安(やす)くし我(われ)師(し)又(また)を  
 送(おく)りて河(が)を渡(わた)さん行者(ぎやうじや)是(こゝ)に小(せう)陸(りく)以(も)つ遂(つひ)に廟(まう)乃(すなは)ち裡(うち)同(どう)り那(な)猪(ち)手(て)を  
 残(のこ)りて把(と)りて陳(ちん)氏(し)が家(うち)小(せう)同(どう)りて今(いま)日(にち)三(さん)藏(ざう)ハ沙(さ)僧(そう)陳(ちん)清(せい)陳(ちん)澄(てい)小(せう)

と廳上さしき小有こく行者ぎやう八戒はつがいが音信おんしんを待まち々々まじまじふかばら兩人にん勇ゆう々まじまじ同どうをりんりん三戒さんがい即すなはちちり祭實さいじつのり成なり問とみ行者ぎやう那姪なぢのりをを一いつ遍べん鏡きやう了りょう陳清ちんせい兄弟けいだい一家いっかの男女なんにょ大おほい悦よろこび林舖りんぷを嫌きらた師徒しとを精せい一いつ枕まくらと高たかろろ一いち急いそふ安寐あんまいを却さか鏡きやう那姪なぢ惟ただ水府すいふ小同せうどうで嘿あはれ然しか一いつ憂うれひのいろ色面いろ小表せうつつ更さらふ不ふ言ごん是こ小依よ々まじまじ水府すいふ小伺せうご候まち々々まじまじ妻女さいにょのこ妖よう々まじまじ不ふ審しん跪かれて問と々々まじまじ大王たいわう例年れいねん享祭きやうさいより回くわいりもも同どう六ろく怡い晚ふのいろ色いろありあり怎どう麼や今いま年ねん何なにの煩わづら悩なやみみたたららああらら那な姪ぢがが日ひ常じょう年ねん祭さいふ臨りんぶぶ些ちの餘物よぶつを持も回くわい々々まじまじ你なん們んのの賞味しょうみさせさせがが今日けふハハ我われがが曾まじまじ々まじまじ吃くつつがが能あたるるとと刺さへへ性命せいめい然しかも失うせせととせせとと結むすままババ小せう妖よう々まじまじのの大おほい小せう驚おどたた怎どう麼や一いつつつのの小せう小せうややとととと妖よう々まじまじがが曰いわはは東土とうど大唐たいたうのの聖僧せいそう徒弟とで弟ていとともものの西天さいてん小せう行佛ぎやうぶつを拜をらへへ經きやうを求もとめめるる者ものああらら那な徒て

弟てい神通しんとう有あり假かり小陳氏ちんしが家いえの童男どうなん童女どうにょとなり廟やうの裡うち小吐せうききり我われ至いたるるをを乃なんんくく忽たちちち本相ほんさうを現あらし我われと敗やぶれり我われ曾まじまじ々まじまじ人ひとののつつをを中なかつ小那唐僧なたうそうと十世修行じゅうせいしゆぎやうの好この人ひとゆゆ他たが塊かたまりの肉にくをを吃くつつ同どう公こう壽じうと延生えんせいを長ながくくと不期ふき小他た後ご弟てい小這般この神通しんとうの者ものああららと我われ昔むかしも他た小名なをを壞やぶられられと我われ兼かてて唐僧たうそうを捉とへへ汝なんと共とも小吃せうつつを要いままささとと那な徒て弟てい亦また師し父ふを護まもるる上うハハ怕おそくくハハ此こがが能あたるると一いつ人ひとの班衣はんい鰌うなぎ波なみししと姪ぢ一いつ踊うりりと列れつをを出いだだのの小せう笑わらひひと妖よう々まじまじ小對せうたいと曰いわははと大王たいわう何なにを這般この弱じやくいいれれるるを曰いわははと那な唐僧たうそうを捉とへへと要いままささ何なにの難がたたたらら有あり但たゞし我われホほ力ちからを盡つすす一いつく他たを捉とへへららと大王たいわう如何いかうなる思おもひ賞しょうををももららや妖よう々まじまじ曰いわはは汝なんとと我われと力ちからを併あはあせせ唐僧たうそうを捉とへへららと我われ兄にい妹いもうととと一いつ汝なんと





西遊記三編卷六



里民們  
促二童  
牲到靈  
感廟

西遊記三編卷六

一五

席を叩く。重く汝を享へ。鯁渡女有とて拜謝し終つて云々。我久しく大王の風を呼雨を喚つ神通海を攪り江を翻るの勢力あまらざるを知る。茲に雪を降し氷をむとて街小至りて。會中さん。妖怪が曰。四個をうりて易れりなり。鯁渡是を穿り手を拍り大の大喜び。大王斯のしく奇術ある。唐僧を捉へんと。前小あり。妖怪曰。汝試小謀をこれ。鯁渡が曰。今宵三更小至ると。大王越々快く法を行ひ一陣の寒風を吹起し大雪を降し。且這派范し。通天河をしりく凍となり。我其中小く変化して幾個とて人形を作路上小く置包を背り傘を持車を推り氷の上を行走し。躰をなごをなご。唐僧必む経を求る心急し。この躰をなご氷を踏ぎ渉りて必定なり。其時大王八河心小坐し。

他が脚踪响を相聞小寒氷を裂く。他小師弟を二各小水中へ陥り。斯のしく。一鼓小く擣とせし。何の難たさる者。んと手小把し。迷るる。那妖怪中々満心歡喜。此策甚く妙なり。即小水府を出り長空を踏相聞し。寒風を起し雪を散り氷を結り凍し。此時三藏師徒四個を陳家小按宿り有る。夜乃更る小隨ひ衾寒く。枕冷中々小覺れ。小寐ぎ。了れ八戒目を覚し。行者小向ひ曰。哥。何と。こす冷る。行者が曰。汝試子さりとて。不長俊なり。多然り者。已小出家人の何ぞ。女の冷を怕るや。三藏も目をさす。二人乃結を。徒弟亦うりて。扱も冷る。死と眼を。起衣服を穿り。扉を用た四方を。小早天曉り。

空しかり只肴四方都て白雪茫茫と一すの地をも残す。徒  
 弟小向ひ。汝亦寒たむ理あり。今是秋かふ一夜の中大雪降て  
 尚露や守紛々として剪玉の如く偏る。綿絮を飛す小  
 似ると。師徒多因歎翫居る所小忽ち陳澄童僕小命して雪  
 を拂ふ路を用た湯を持来り面を洗ふと勧め。又女因して茶  
 と餅を送る。炉小炭をけ火挨拶して。師徒叙坐して茶と  
 服して。中。三藏問多や。老絶至此里少く。春夏秋冬の令  
 ちをた。陳澄は。ひさかた。此辺僻地ゆへ。風俗人物上國  
 小は。九一切のる小。到る。天を。日成る。小。これ  
 怎麼西河の分さるの理い分た。三藏又曰。既小四河は。之を何と令  
 此大雪降る。斯る。寒氣強きや。陳澄女河考て曰。因今七

月よりと。魚昨日とて。白露の時候を交り。白露ハ則ち。是ハ  
 月乃節あり。我此里ハ。毎年八月の頃。小至ま。霜雪の降るあり。三  
 藏は。曰。我東土。小。那里。小。二尺小。及  
 至り。方小。是あり。と。然り。向小。平地小。雪は。ふる。二尺小。及  
 ぬ。三藏是。汝。胸を。撃。涙を。流。これ。陳澄。其心を。去。す。縁  
 乃愁を。慰。練。曰。長老。あ。寸心を。若。寸。放心。して。這。留  
 一。我。舍。下。多。少。の。糧。を。貯。り。半年。や。一年。師徒。を。養。ひ。共  
 難。三藏。曰。三藏。洞。を。収。り。曰。老絶。至。今。貧僧。苦  
 一。小。子。細。を。知。り。我。當年。唐。の。萬。歳。の。飲。差。を。奉。り。西。天  
 小。至。里。經。を。求。り。長。安。を。出。る。河。國。王。親。國。所。送。り。而  
 小。り。向。ひ。汝。幾。河。經。を。取。り。國。へ。取。り。と。貧僧。曰。小。山河

行者  
八戒  
逐妖  
怪



行者

西遊記三齣卷七

百集卷二册六

乃險あゝるをちりす頃口小回奏一々六三年の光陰を送りあ  
 経を取ら飯をさしむしりしと中上さふ今已小八ヶ年小及ぶもあ  
 佛面をさ小拜せす飲差の限小違しるる恐多さ小焦慮さる  
 かり今日奇縁ありて貴所小一夜の舎をほ思弟も昨夜の小  
 技をゆりて令息令女を救ひしを要す一艘の船を借河を渡  
 らんとすいふ不期も這大雪小あひ幾回繞小功をかりて故  
 土小回るる成ほんやとく只管悲を歎く成月々陳老さぬ練  
 老爺さぬの憂ひもふ天暗氷化かを家産を傾しかりとも河  
 成さぬ進せしとん慰むるも一僕午舟を進りきる是品  
 物豊盛乃重饗なり師徒吃一終まを陳老さぬ雪洞小行散回  
 りとく大小遊婁を催しりしを師徒憂を拂ひ寒さ成忘き日

とく小晚景小及びくろぐ三藏忽ち川面をなると小まくの今行走  
 とる跡をれと大小訝に陳老小問曰河水凍く往來か死答ふ  
 不小息麼是何の故とや陳老答へるハハハハ小是近死河辺と  
 浅た所堅く凍く水の上成往來さる小やいしと結る処小只皮  
 那行人終結行くとん多さる此川廣くと魚八百里間乘心く盾子  
 氷まゝ斯行走とるハ船少く渡るよりも甚く便利なりと三藏此  
 り然安と大の小悦ひ維り行く河の様子成及く来るとんやと要む  
 陳老と練曰長老必む忙たると勿き今日ハ早晚小及ぬ  
 明日兎も角ゆいしとて其夜もさる住りり初次の日曉あも及ひ  
 々々ハ三藏起出行者小命とて汝背馬と氷の様をんきとれ  
 とりしを陳老再三陳曰先雪融凍解を待り我門船をん

安々と進せしと魚行者更も不肯耳ふ安八目ふんふ六不  
我師又我も誘ひ行く共小舟とて馬を引出したる陳老も練  
むふ小舟を然る我れもも小全とて小的を呼ぶ六匹の馬を  
鞆(各是)小跨(各)里(各)連(各)河(各)辺(各)行(各)く(各)日(各)々(各)小(各)果(各)然(各)川(各)水(各)都(各)凍(各)氷(各)人(各)  
の(各)行(各)走(各)い(各)と(各)多(各)三(各)藏(各)陳(各)清(各)小(各)向(各)ひ(各)這(各)行(各)人(各)を(各)那(各)里(各)へ(各)通(各)く(各)人(各)を(各)と(各)問(各)  
陳(各)清(各)各(各)曰(各)河(各)乃(各)那(各)辺(各)ハ(各)西(各)洋(各)乃(各)外(各)國(各)あ(各)る(各)這(各)行(各)人(各)を(各)賣(各)買(各)を(各)做(各)的(各)  
と(各)覺(各)し(各)我(各)這(各)辺(各)あ(各)る(各)百(各)錢(各)の(各)物(各)ハ(各)那(各)辺(各)持(各)至(各)れ(各)ハ(各)價(各)萬(各)錢(各)と(各)な(各)る(各)又(各)那(各)  
辺(各)あ(各)る(各)百(各)錢(各)の(各)的(各)を(各)這(各)辺(各)小(各)持(各)と(各)れ(各)バ(各)日(各)々(各)百(各)倍(各)の(各)利(各)あり(各)利(各)ハ(各)重(各)く(各)  
く(各)本(各)ハ(各)輕(各)し(各)是(各)那(各)行(各)人(各)の(各)死(各)生(各)を(各)不(各)顧(各)く(各)往(各)來(各)を(各)所(各)以(各)か(各)り(各)平(各)  
日(各)ハ(各)一(各)船(各)小(各)五(各)七(各)人(各)も(各)集(各)或(各)ハ(各)一(各)艘(各)小(各)十(各)余(各)人(各)も(各)の(各)り(各)渡(各)ゆ(各)今(各)河(各)道(各)氷(各)  
く(各)途(各)方(各)を(各)死(各)故(各)命(各)成(各)捨(各)く(各)凍(各)上(各)を(各)歩(各)行(各)を(各)る(各)小(各)舟(各)の(各)と(各)結(各)れ(各)ば(各)

三藏が曰一切世間乃るも只名利を重んじざるを他が財利乃為小  
先を忘るも我勅を奉る忠を尽すも只是名の為なり他と更  
小差一所あり行者を呼ぶ汝絶主の家小回し行李を收拾す  
きこれ我氷を踏く西方小走らん行者亦笑然る聲して己小走  
とて我汝僧急小袖を扣へ師兄女同待我一言いや者と遮り留  
めたる必竟は何ぞ哉りりや其下回を足々分解す

繪本西遊記二編卷之七畢

西遊記二編卷七

